

令和7年度 長崎市立高島小学校 学力向上プラン

【学校教育目標】

笑顔いっぱい

～気づき、考え、行動する 高島っ子を育てる～



めざす子ども像

○たくましく生きる高島っ子 ○感謝の心を持ち優しく思いやりのある高島っ子 ○真剣に取り組む高島っ子 ○学び合う高島っ子

めざす職員像

○授業に真剣に向き合う職員
○子供に寄り添う職員
○協働する職員

めざす学校像

○学力を保障する学校
○心を育む学校
○体を鍛える学校



令和7年度 重点努力事項

（重点目標1）すべての子供たちに基礎基本の定着と、確かな学力の向上をめざす。

- ①「主体的・対話的で深い学び」が身につく授業の実践
- ②校内研究による授業力の向上
- ③ICT機器の効果的活用
- ④中学校教員による乗入授業の効果への期待
- ⑤対話的な学習の機会を確保するための遠隔授業の実施
- ⑥極小規模校での利点「個別指導、個別対応」の充実

重点目標（成果指標）

次年度の市・県・全国学力調査において、国語・算数などの項目も、それぞれの平均値以上となることを目指す。

長崎市第五次総合計画

基本施策 G1

「長崎のまちを愛し、新たな時代を
生き抜く子どもを育みます」

○個別施策 G1-1

「確かな学力の向上を図ります」

第四期長崎県教育振興基本計画

1-1 成長の基盤となる
資質・能力の育成

【児童の実態】

今年度の学力調査では、個人差は見られるものの、市・県の平均値を上回っている設問も多く見られ、これまで行ってきた授業改善や家庭学習等における継続的な指導が実を結びつつあると考える。現状、本校の児童は、指導されたことを素直に聞き、真剣に授業に臨んだり、与えられた課題に一生懸命に取り組んだりしている。しかし、身に付けた知識・技能を生かして、応用的な問題を解決する力や、自らの考えを表現する力、自らの課題に応じて学習を工夫する自己調整能力、自主的に問いを見付けて探究活動に取り組む姿勢に課題がある。日々の授業の中で、知識・技能を身に付けるだけでなく、それらを活用して、思考し判断し表現する場面を重点的に仕組む必要がある。また、少人数のため、児童同士の対話の機会が他校の児童に比べて著しく少ない。他校との遠隔交流等の取組の工夫・実践を通して、より実り多い学びを創っていく。

具体的な取組

長崎市立高島小学校



高島の宝である子どもたちの健やかな心と体の育成

あじさい スタンダードの活用

○あじさいスタンダードを活用し、確かな学力の向上を目指す。

複式学級の特性を 生かした授業

- 複式学級における「直接指導」「間接指導」や「ずらし」「わたり」等の指導方法を工夫する。
- 少人数のよさを生かし、個々に応じた指導を充実させる。
- 校内研究では、授業の中に対話の場面を意図的に仕組みながら、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。また、他校との遠隔授業を計画的に仕組み、児童が対話的な学びを通して、考えを深め合える授業の実現を図る。

幼小中学校の 連携を生かした指導

- 12年間を通した一貫性のある継続した指導を行う。
- 幼・小・中職員が協働し、入学時における学校生活の段差を解消する。
- 幼小中で合同行事に取り組み、異なった多くの学年と活動することを通して、自分を見つめ、自己実現に向けた意欲を高める。
- それぞれの発達段階に応じた研究主題を設定して校内研究に取り組む。学期に1回、それぞれの課題や研究の進捗状況を報告し、校種のつながりを見据えた指導の実現を目指す。
- 中学校職員が専門性を生かし、5、6年生の書写、外国語、理科で乗り入れ授業を行うことで、学力向上を図る。
- 小中職員で、相互授業参観することで授業改善を図る。

ICT 機器活用

- 子供たちがよりよく分かる授業を実現するために、ICT 機器を活用する。
- ICT 機器を用いて調べたり、発信したりする活動を通して、児童の学び合いや協働的な学習を充実させるとともに、情報収集能力や情報活用能力を高める。

交流学习や平和教育

- 伊王島小学校、日吉小学校、那賀小学校との交流学习などを通して、多様な考え方に触れるとともに、生活体験を豊かにすることで、自己肯定感を高める。
- 平和教育を通して、自他のよさや望ましいかわり方に気づき、思いやりの心を育成する。

家庭教育と 学校教育の連携

- 「早寝・早起き・朝ごはん」をキーワードにし、生活リズムを身に付けさせる。
- 学校保健委員会の提案をもとに、学校、家庭、地域が一体となり、子供たちの健康増進や体力向上を目指す。
- 「よくわかる高島小学校」を家庭に配付し、学習規律や本校のきまりについて学校と家庭で共通理解を図る。

基礎基本の定着

- 週に1回、一斉に読書を行う読書タイムを設定する。
- 週に1回のチャレンジタイムを有効的に活用し、確実な基礎基本の定着を図る。